

議 事 録

用 件	市長と語る会（東濃厚生病院の存続を求める市民の会）
日 時	令和6年5月13日（月）11時～12時30分
場 所	市役所 2階大会議室
参加者	東濃厚生病院の存続を求める市民の会 代表 稲葉 助國 他 7 名 （柳瀬、安藤、藤田、伊藤、犬塚、岩島、後藤）
市出席者	水野市長、小木曾健康福祉部長、和田健康づくり課長 進行：加藤、書記：兼松
要点	1. 東濃厚生病院の後利用を話し合う「協議会」は、話が進んでいるか。瑞浪市として東濃厚生病院の後利用への要望を、協議会へ出しているか。 2. 協議会に市民も参加できるようにできないか。 3. 新病院の建設費が当初の200億円から337億円（1.7倍）に膨れ上がっているが、なぜか。 4. 新病院への交通アクセスを市民が利用しやすく公共交通を考えてほしいと多くの市民から要望が届いているが、市はどのように考えているか。 5. 市長は市民の命と健康を守るために、どのように考えているか。
1. 東濃厚生病院の後利用を話し合う「協議会」は、話が進んでいるか。瑞浪市として東濃厚生病院の後利用への要望を、協議会へ出しているか。	
市長	令和2年9月2日付けで「新病院建設後における現東濃厚生病院の機能継続に関する要望書」をJA岐阜厚生連に提出しています。 内容は、1つ目は現東農厚生病院を JA 岐阜厚生連の運営で一次医療機関として継続すること。2つ目は、既存スペースを福祉介護施設などへの活用の検討です。 1つ目の一次医療機関としての機能は継続するよう検討されていますが、どの診療科が残り、医師がどれだけ配置されるかは、新病院の医師の確保の状況によりますので、現時点では決まっていません。 2つ目の既存スペースを福祉介護施設などへの活用の検討については、JA 岐阜厚生連が福祉、介護を行う団体でないため、活用したいという団体を探していますが、現段階では問い合わせはあっても活用したいという団体はありません。瑞浪市が紹介する団体との協議にも応じるとのことなので、市としても探しています。 ただし、病院閉院後の整備となるため、開始には時間がかかると思います。 最終判断は、JA 岐阜厚生連であることについてはご承知いただきたい。
2. 協議会に市民も参加できるようにできないか。	
市長	東濃厚生病院については、市民病院ではなく、JA 岐阜厚生連の所有施設であるため、JA 岐阜厚生連が最終判断をします。市民の参加は考えていません。 しかし、市民の方から（後利用をしたいという）社福祉法人等を、ご紹介いただけるのであれば大変ありがたい。内容を確認して JA 岐阜厚生連に繋ぎたいと思う。
3. 新病院の建設費が当初の200億円から337億円（1.7倍）に膨れ上がっているが、なぜか。	
市長	当初の200億円という数字は細かい積算の金額ではありません。この数字は JA 岐阜厚生連が全国と同規模の病院の建設費から割り出したものを目安としている。

	当初から相当の年月が経ち、物価、世界情勢などが変わっており、費用が大幅に上昇しています。 建設費上昇の主な理由は、 ・建築資材、人件費の高騰。これは世界情勢、働き方改革などによる。 ・工事面積の増加。これは、新型コロナウイルスや新たな感染症が発生しても十分な医療を提供するため、病床病棟を分離するといった変更をしたため。 ・省エネについて高い基準が求められており、そのための対応。 ・業務効率化のための電子カルテ等の導入と医療機器の増額 ・斜面の造成工事による増額。熱海市の土石流災害を受けて、斜面の工事条件が厳しくなった。南側、南東側の斜面については土砂災害の危険性があるため、造成工事を追加している。 ・非常時の電力の確保について、2系統の充電設備での対応が必要になったため。 ・地震への備えとして免震構造での対応。耐震か免震かの検討で免震とする判断をした。工事費を見れば耐震のほうが安い。能登半島地震の際、耐震構造の病院は耐えられたが、揺れで中の機器、資材等が破損するなど大きな被害を受け、患者を受け入れることが困難であった。免震構造の七尾市民病院だけは医療機関として機能し、患者を受け入れることができた。南海トラフ地震が起きると言われていることを踏まえ、土岐市と瑞浪市の公立病院であるため、免震構造とする判断をした。
4. 新病院への交通アクセスを市民が利用しやすく公共交通を考えてほしいと多くの市民から要望が届いているが、市はどのように考えているか。	
市長	交通アクセスの確保は重要課題と考えています。 交通のアクセスについては、JA 岐阜厚生連に強く要望している。 現状では診療所機能が現東濃厚生病院に残る予定であり、新病院へのシャトル便を運行するよう JA 岐阜厚生連の要望している。 どれくらいの便数か、途中どこに停まるか等については、今後の検討。 現東濃厚生病院までは、今までどおりコミュニティバスやデマンド交通、徒歩、などで来ていただきたい。 また、コミュニティバスやデマンド交通とシャトル便との乗り継ぎについては、市の責任においてスムーズな乗り継ぎとなるよう検討する。 現在、東濃厚生病院が自主的に運行している患者送迎用車両「けんこう号」についても、運行の継続を強く要望している。
5. 市長は市民の命と健康を守るために、どのように考えているか。	
市長	新病院は市民の命と健康を守るために重要なものだと考えています。 腹痛、発熱などは市内の個人病院、一次病院、診療所として残る現東濃厚生病院を利用し、そこで重症だと判断された場合に、新病院で対応する、命に係わる大きな病を新病院で対応する、という順番だと考えています。 医師不足が深刻な中、東濃厚生病院、土岐市立総合病院が今後、維持ができなくなる。そこで、新病院を建設し、両病院の医師を集約し、医療の充実を図る。名古屋大学や岐阜大学、東海地域の医学部を卒業された医師を採用し、高度医療が提供できる施設にする。 医師だけではなく、現在の医療には高度な医療機器が必要になる。ダヴィンチと言われる

	ロボットを使って手術を行う時代になってきている。そういった高度医療機器が無いと命に係わる病気に対応できない。そういった設備は唯一、県立多治見病院が採用したが、東濃厚生病院、土岐市立総合病院には無い。多治見市民病院、恵那市民病院、中津川市民病院にも無い。 そういった高度医療機器を揃え、高度医療が提供できる病院であれば勤務を希望する医師も増えると考えている。 市民の命を守るためには、高度医療が提供できる新病院、そこに勤務する医師や看護師、その他のスタッフの確保が必要になると判断した。
6. その他	
柳瀬	本日、東濃厚生病院を残してほしいという切実な訴えの署名を3,038通持ってきた。陶町だけでも900通を超える。「自分のところには署名用紙が来ていない」などの意見も貰っていることや市内全域を回れていないことなどを考えると存続希望者はもっといられる。 なぜこうした意見があるかと言えば、実際に病院へ行く立場の人から見ると、立派な病院ができてそこへ行くことができないから。大きな病気、ケガの場合に肥田(新病院)まで行くのは大変な負担。今受けている医療サービスを今後も継続して現東濃厚生病院で受けられるようお願いしたい。 シャトル便についても東濃厚生病院まで来てから(乗り継いで)新病院へ行く、また帰ってくるとなると、病院へかかること自体に負担が上乗せされる。 坂下病院が診療所となったことで、診てもらえなくなり、亡くなっている方がいると新聞に掲載されていた。そうならないために、瑞浪市民の命を守るため、寄り添って考えていただきたい。
市長	東濃厚生病院が残れば、それは素晴らしいこと。しかし、この先、5年、10年、20年と残続けることができるかどうか。20年後には建替えの時期が来る。ここに建替えることが現実的かどうか。20年後には瑞浪市の人口は3万人前後程度の予想。人口の減少は病院利用者の減少であり、利用者が減少すれば、病院の経営は厳しいものになる。
伊藤	東濃厚生病院の経営は赤字か。さらに補助をして市で運営できないか。
市長	現在、年間6,000万円の補助をしているが、経営は厳しいと聞いている。 全国の公立病院の経営はほぼ赤字であることを受け、厚生労働省も見直すよう言っている。市が公立病院を運営する場合は数十億円では足りない。 医師不足も進み、東濃厚生病院の維持は難しくなり行き詰まる、そういったことを踏まえてJA岐阜厚生連から新病院の話があった。市民病院であれば、市が(運営方針を)決められるが、それには何十億円という一般財源を使う必要がある。道路、福祉介護などの市民サービスを見直さなければ、財源の確保が難しい。
岩島	高度医療機器を整備すれば、医師が集まるというのは錯覚ではないか。開院したが、医師がいないという状況にならないか、疑問である。

市長	新病院の経営も JA 岐阜厚生連にお願いする。 医師、看護師、医療スタッフの確保も JA 岐阜厚生連にお願いすることになる。 JA 岐阜厚生連は名古屋大学、岐阜大学、愛知医科大学などと医師確保の交渉を進めている。 瑞浪市としても、土岐市長とともに医局を回り、医師の確保をお願いしている。 医師の確保について、医師が減少している東濃厚生病院、土岐市立総合病院と新病院ではどちらが医師を確保できる可能性が高いかを考えなければならない。
柳瀬	医療は消防署や警察と同じように公的なものだと考える。儲かる儲からないという尺度では、市民の命を守ることができない。人口減少で多くの自治体が消滅するのではないかとされているが、どの地域の住民でも住み続けられるよう医療を受けられるようにすることが必要。 駅北開発の話があるが、なぜ駅北に施設を集約しなくてはいけないのか、駅北の開発より病院の存続のほうが市民には重要ではないか。
市長	市民の命を守りたいのは同じ気持ち。 ただし、東濃厚生病院は市民病院ではなく、JA 岐阜厚生連の所有であるため、JA 岐阜厚生連の意見を尊重する必要がある。 各市に市民病院があるという状況では、5 年、10 年したら行き詰まる。その前に新病院の建設を決断した。
安藤	新病院なるとさらに遠方になる方、交通の便が悪いなどの理由で、新病院に代わることができない方もいる。そういった方の視点で見ること、瑞浪に来てよかった、住んでよかったとなる。基本に戻って市民の生活の視点から考えてもらいたい。 もう少しすると、免許を返納するような歳になる。交通の便が悪くなるが、せめて病院が近い、受診しやすいということは大切。現在の建物が耐震、災害時の備えもできているのであれば、お金の使い方を考えて存続してほしい。
藤田	JA 岐阜厚生連には医師、医療関係者の確保に向けて活発に進めてもらっている。助産師の確保についても進めてもらっている。次世代のことを考えると助産師の確保は重要と思うが進捗状況を教えてもらいたい。
市長	産婦人科医については JA 岐阜厚生連が 1 名確保し、今現在、東濃厚生病院の婦人科医として勤務いただいているが、新病院開院後は新病院で勤務いただくことが決まっている。 また、新病院の建設に当たり、必要設備やレイアウトなどのアドバイスも頂いている。 医師一人では勤務体制は組めない。何名かは名古屋大学等から派遣してもらうことをお願いしている。
藤田	市長の話を聞き、深く考えられておられると、安心した。

市長	いくつかの病院に受け入れを断られ、あるいは受診したが対応できず、移動を繰り返したのちに、亡くなった小学生のお子さんがある。 そういう現状をご理解いただきたい。新病院では複数人体制にし、受け入れ体制を整えたい。
藤田	医師不足では疲弊してしまう。ぜひ医師確保に向けて今まで以上に動いていただきたい。また、本日は有意義な話を聞くことができた。ぜひ、こういった詳しい話を広く市民に伝えてほしい。
後藤	一番の課題は医師の確保。 2月29日にJA岐阜厚生連と懇談をしたが、役割が曖昧だと感じた。 事務組合、瑞浪市、土岐市、JA岐阜厚生連の4者が役割をはっきりさせ、連携を強化して新病院建設を進めてもらいたい。
市長	事務組合の管理者は加藤土岐市長、副管理者は瑞浪市長で、病院事務組合に瑞浪市職員を派遣している。常に職員から報告も貰っている。また、瑞浪市議会から5名、土岐市議会から5名の議員で組合議会に諮りながら進めており、意思疎通はできていると考えている。 この事務組合の大きな役割は新病院の建設をすることです。 JA岐阜厚生連の大きな役割は指定管理者として新病院を管理運営することです。 管理運営には、医者や看護師、医療スタッフの確保が含まれている。 ただ、瑞浪市、土岐市、事務組合は病院の専門家ではないので、JA岐阜厚生連と協力し、どういった機器が必要か、どういう設計が動きやすいのかなど協議をしながら進めている。 また、医師が少しずつ決まってきた。その中で、必要な医療機器の要望が出ている。それらを踏まえて新病院の建設を進めており、連携はできていると考えている。
藤田	建設を大手ゼネコンにお願いしているが、大手だからと安心せず、職員を配置し、施工不良がないよう進めてほしい。
市長	日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社に間に入っていただき、各工程をチェックしている。
柳瀬	病院の後利用について、人工透析を残していただきたい。 透析自体に時間がかかるため、遠くなるのは負担が大きい。 また、今ある医療機器を残し、東濃厚生病院でも検査等ができるようにしていただきたい。
市長	人工透析の継続については令和2年の要望書にて要望している。 瑞浪市には透析患者が多い。遠くなれば負担が大きいため、現東濃厚生病院で人工透析が受けられるよう強く要望している。

	JA 岐阜厚生連としては医師の確保ができるかどうかが重要だと言っている。 新病院では30名を受け入れられるよう計画している。全体的に医師の確保が重要となる。 皆さんの意見は JA 岐阜厚生連との打ち合わせの中で伝えており、無視はしていないこと をご理解いただきたい。
--	--